

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



9月の銅の概況及び10月の見通し (4)

【見通し】

- 自動車は生産が-2%。国内販売台数が前年比-3.1%。生産、販売とも2カ月連続マイナス。
- 販売のマイナス幅が拡大しておりこれが続くかどうか今後に注目。
- 住宅着工の動向については、前年同月比で+1.6%と3か月ぶりプラス。
- 今後プラス傾向が続くのか今後の動向に注目。
- 仲銅品は3カ月連続減少、前年比-1.3%。
- 需要の多い銅条3カ月連続マイナス、黄銅棒は3カ月振りプラス、輸出3カ月連続マイナス。
- 微減ではあるが今後マイナスが続くか注目。
- 電線は前年比+2.2%の5万4800t。
- 輸出が-10.6%。需要の多い自動車、建設電線がそれぞれ+4.1%、+4.5%。建設電線が5カ月連続プラスに！
- 銅輸入は地金が円安から増加。スクラップは内需用途から減少。
- 銅輸入はLME価格の上昇や円安を受けての割高感から減少。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は、月初の建値71万から一時75万まで上昇したため多少でてくるが問屋の塩漬け在庫は建値80万時のものと言われておりでてこないのでは？。

需要面に関しては足元の生産状況が比較的良好。

秋冬の需要に向けて購入意欲は高いが品費の良いスクラップは高値で購入したもので問屋の出し渋りが考えられ、建値が更に上昇しなければ需給は引き締まるのではないか。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争とLME銅在庫の動向に左右される。

米中貿易戦争に関しては2,000億ドル相当の中国製輸入製品に対して25%の上乗せ関税を課す予定を10%に減少させ、中国高官との交渉を検討するなどの譲歩はあったが、結果交渉は流れ、またさらに追加関税に言及している事から治まる気配はないのではないか？

LME在庫の動向に関しては、先日長い間の節目であった20万tを切った。これは中国環境規制の銅スクラップなどの輸入減少から電気銅を買う傾向が流暢になってきている現れ。今後もこの傾向が続くのではないか？

これらを踏まえた9月の銅価格は、米中貿易戦争で緩和に向かう何かしらの話し合いや政策がでてLME

在庫が19、18万tと順調に減少した場合6,400ドル付近。両条件が揃わなかった場合現状からもう一段安の5,900ドル付近まで下落するとの予想。

ドル円値は111円～114円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては700～770円程度と予測している。

9月のアルミ概況および10月の見通し (1)

予測レンジ

LME	現物後場買い1,900～2,100ドル	●
スクラップ	0～+5円(前月最終価格より)	●
為替	111～114円(1か月間TTM)	●

■国際概況

前半は、トランプ米大統領が自動車関税をゼロにするというEUの提案を拒否、ロシア・ルサールが10月に予定されている米国からの制裁に備えて生産量を落とすと報じられて、週初急騰した上げ幅を縮小するなどのマイナス材料もあった。しかし、8月の米雇用統計は、非農業部門の雇用者数は前月比20.1万人増で事前予想の19万人を上回ったことや、トランプ政権の貿易制裁関税案についての一般からの意見募集が終了したことなどを好感しUP。

9月15日時点での2,034ドル(セツル)と月初価格から29ドルDOWNの前半締めとなった。

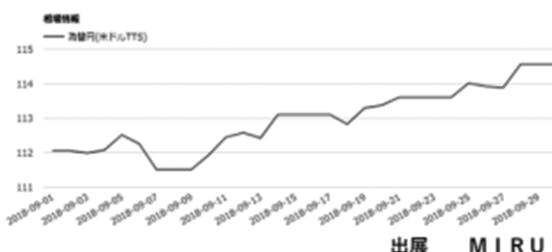
後半は米が17日にも対中追加関税第3弾、2,000億ドルを発動する可能性があり、中国側も対抗措置を講じる用意があると報じられるなど、米中通商問題がさらに深刻化していることや、マークイット発表の9月の中国製造業PMI指数が50.0と前月の50.6から大幅悪化などのマイナス材料もあったが、米国の2,000億ドル追加関税措置が当初の25%から10%に軽減されたこと、NYダウの最高値更新、中国の景気刺激策期待からほぼ全面高などを好感しUP。

10月2日現在、後半スタート価格から62.5ドルUPの2,047.5ドル。

■国内概況

◆月間のドル/円レート (TTS)

111.19→113.74(円)



【次号へ続く】